



行事 + 伝説 + 風習 = 七夕

本日は七夕です。

「たなばた」と聞いて、その由来を正しく話せる人は意外と少ないはず。なぜなら、そのストーリーや成り立ちの背景は結構複雑だからです。まず、七夕の起源・由来となったものには、大きく次の3つがあります。

- (1) 日本の神事「棚機（たなばた）」
- (2) 織姫と彦星の伝説
- (3) 奈良時代に中国から伝来した行事「乞巧奠（きこうでん）」

この3つがあわさってできた行事が「七夕」だと考えられています。順に見ていきましょう。

棚機（たなばた）とは？

「棚機（たなばた）」とは古い日本の禊ぎ（みそぎ）行事で、乙女が着物を織って棚にそなえ、神さまを迎えて秋の豊作を祈り人々のけがれをはらうというものでした。

選ばれた乙女は「棚機女（たなばたつめ）」と呼ばれ、川などの清い水辺にある機屋（はたや）にこもって神さまのために心をこめて着物を織ります。

そのときに使われたのが「棚機」（たなばた）という織り機なんですね。

やがて仏教が伝わると、この行事はお盆を迎える準備として7月7日の夜に行われるようになりました。

現在七夕という二文字で「たなばた」と当て字で読んでいるのも、ここから来ていると言われています。

そもそも「七」や「夕」を、「たな」とも「ばた」とも読みませんよね。

織姫と彦星の伝説

琴座のベガと呼ばれる織女（しゅくじょ）星は裁縫の仕事、鷲（わし）座のアルタイルと呼ばれる牽牛（けんぎゅう）星は農業の仕事をつかさどる星と考えられていました。

この二つの星は旧暦 7 月 7 日に天の川をはさんで最も光り輝いているように見えることから、中国でこの日を一年一度のめぐりあいの日と考え、七夕のストーリーが生まれました。

簡単に、その物語をおさらいしてみますね。

昔あるところに、神様の娘の織姫と、若者の彦星がいました。

織姫は機織りの仕事をしていて働き者。彦星は牛の世話をしているしっかり者でした。

やがて 2 人は結婚しました。

すると、今まで働き者だった 2 人は急に遊んで暮らすようになり、全く働かなくなってしまいました。

怒った神様は、2 人の間に天の川を作って離してしまいました。

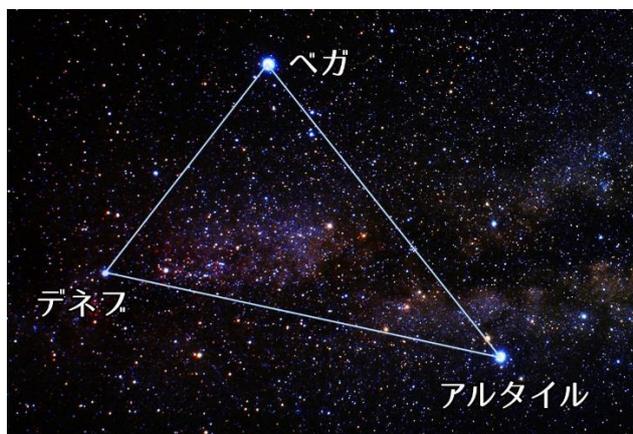
悲しみにくれた 2 人は泣き続けました。

それを見た神様は、前のようにまじめに働いたら、1 年に 1 度だけ、2 人を会わせてくれると約束しました。

それから 2 人は心を入れ替えて一生懸命働くようになったのです。

そして、2 人は年に 1 度だけ天の川を渡って会うことが許されるようになり、その日が七夕とされるようになりました。

広く知られている由来としては、この織姫・彦星伝説が最もポピュラーかもしれません。



理科で習う「夏の大三角」のうち 2 つのベガとアルタイルが関係している伝説なんですね。

乞巧奠（きこうでん）とは？

「乞巧奠（きこうでん）」は、中国の行事で 7 月 7 日に織女星にあやかってはた織りや裁縫が上達するようにとお祈りをする風習から生まれました。

庭先の祭壇に針などをそなえて、星に祈りを捧げます。

やがてはた織りだけでなく芸事や書道などの上達も願うようになりました。

つまり、日本の古い禊ぎ行事と、中国に伝わる星々の伝説と、芸事などの上達を願う風習がかけ合わさってできたのが、現在の「七夕」だということです。

現在につながるまでの変遷も、すこし追っていきましょう。

日本に伝わった七夕の行事

平安時代には、宮中行事として七夕行事が行われるようになりました。

宮中の人々は桃や梨、なす、うり、大豆、干し鯛、アワビなどを供えて星をながめ、香をたいて、樂を奏で、詩歌を楽しみました。

サトイモの葉にたまった夜つゆを「天の川のしずく」と考えて、それで墨を溶かし梶の葉に和歌を書いて願いごとをしていました。

梶は古くから神聖な木とされ、祭具として多くの場面で使われてきました。

江戸時代、やがて庶民の行事へ

江戸時代になり七夕行事が五節句の一つとなると、七夕は庶民の間にも広まり、全国的に行われるようになりました。

人々は野菜や果物をそなえて、詩歌や習いごとの上達を願いました。

梶の葉のかわりに五つの色の短冊に色々な願い事を書いて笹竹につるし、星に祈るお祭りと変わっていきました。

なぜ笹に飾るのか？

七夕飾りの笹七夕飾りをなぜ笹に飾るのかというのは定かではないところがあるのですが、笹には冬場でも青々としている事から生命力が高く邪気を払う植物として向かしかから大事にされてきました。

また虫などをよける効果もあり、当時の稲作のときには笹をつかて虫除けをしていたことや、天に向かってまっすぐ伸びる笹は願い事を空のおりひめ、彦星に届けてくれると考えられていたようです。

ちなみに、七夕飾りの種類にもそれぞれに意味があります。

紙衣（かみころも）	裁縫の腕が上がるように
巾着（きんちやく）	お金が貯まりますように
投網（とあみ）	豊漁になりますように
屑籠（くずかご）	整理、整頓、物を粗末にしないように
吹き流し（ふきながし）	織姫のように機織が上手になりますように
千羽鶴	家族が長生きしますように
短冊	願い事がかない、字が上手になりますように

さて、その七夕の為に「笹」がいるなと思ったわけですが、どこから取ってきてよいか分からない。

そこで、知り合いの福祉協議会の人に連絡をすると、さすがはそのプロ。

あっという間に場所と人を紹介してくれて、4年生の教室に立派な竹笹が届きました。

朝、早くに学校についた子たちから飾りつけの準備をしてもらい、それぞれ願い事の短冊や紙細工を飾りました。

今日も、良い一夜となりますように。



☆ ↓ 読者ページはこちらから ↓ ☆ ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

